



亀中だより

No.36 令和8年2月9日 文責 岡田

For The Students!

あなたならなんと言う？

元日の朝、自宅からそれほど遠くない神社に初詣に行きました。たくさんの方が参拝に訪れていましたが、よいお天気にも恵まれて、2026年の幕開けを気持ちも穏やかにスタートさせることができました。おきまりのように参拝をして、おみくじを引き、「吉」という文字に安堵しながら、帰宅しようとしたとき、近くで一つのハプニングが起きました。

境内を掃き掃除していた方が集めていた落ち葉や砂が、風にもあおられて舞い上がり、一人の参拝客の足元にかかってしまいました。お掃除をしていた方は、あわてて「ああ！ すみません」と申し訳なさそうに言いました。これに対して、かかってしまった参拝客の対応は…。



あなたならなんというでしょうか。考えられるのは2種類くらいです。たとえば、「いえいえ、だいじょうぶです」というか、でも自分の気持ちが整っていなかったら、「何をするんだ」などと文句を言うてしまうくらいでしょうか。でもこの参拝客、少し違った言葉を選び、さりげなく去っていきました。見た感じとしては中高年の男性、私と同じくらいの年齢の方かもしれません。しかしその振る舞いがなんともかっこよかったのです。彼はなんと言ったのでしょうか。

「おそうじ、ごくろうさまです」

実にカッコいい！ こうした状況で、なかなか言える言葉ではないですよね。「何するんだ！」なんて思わず言ってしまう人もいかもしれませんが、この方のような振る舞いが、紳士的な人柄や人間としての「器の大きさ」みたいなものを感じさせます。2026年スタートの時に、「こんな人になりたいものだ」と思ったのは言うまでもありません。

時々「カッコよさって何だろう」と思うときがあります。中学生のみんなには“カッコよくあってほしい”と思います。「マウントをとる」という言葉が、インターネット文化から波及し、2010年代の後半から一般語としての認知が広まりました。ご存じの通り、「人間関係において自分の優位性を示すことで、相手よりも上の立場に立とうとする行為や態度」のことです。この場面でも参拝客と清掃員という立場を使って、「何をするんだ」とマウントをとろうとする人もたくさんいるかもしれません。あなたはどちらのタイプですか。そしてどちらのタイプに、よりカッコよさを感じますか。

自分を強く、大きく見せたいというのは、誰にでも起こる感情かもしれません。こういう私もあてはまります。だけど、それを周りで冷静に見たときには、逆にちっぽけな人に見えてしまうことのほうが多いのではないのでしょうか。チャットGTPによると“マウントをとる人の特徴”として5つがあげられていたのでご紹介しておきます。

やっぱり「おそうじ、ごくろうさまです」のほうが何倍もカッコいいですよね。本当にかっこいい、本当に強い、本当に大きいって何なのか、よく考えてみませんか。

<マウントをとる人の5つの特徴>

- (1) 自己肯定感が低い
- (2) 劣等感が強い
- (3) 承認欲求が必要以上に強い
- (4) 支配欲、コントロール欲が強い
- (5) 不安を隠すための防衛本能